

日本学術会議協力学術研究団体への新規申込みがあった団体の概要

	団体名	概 要
1	日本映画学会	映画学は世界各地の研究教育機関で長い歴史を誇り、隣接諸学に広範な影響を与え、大きな進展をしてきた。しかし日本では長い間映画学の学会が存在せず、日本の映画学と世界の映画学との交流を妨げてきた。本学会では、映画学研究者相互の交流と映画学のより一層の深化と普及を図る。
2	日本FP学会	大学を中心とした研究機関でのパーソナル・ファイナンスに関する学問的研究の強化と海外・国内における産業界でのCFP認定者など実務家との継続的なコラボレーションの場を設けるとともに、相互交流による実社会に対応したパーソナル・ファイナンス研究の水準アップを図る。

○代表派遣：平成29年10－12月期の会議派遣候補者

	国際会議等	会期		開催地及び用務地	派遣者（職名）
		計			
1	IAP-R 理事会、IAP 合同会議（IAP-S 執行委員会、IAP-R 理事会含む）	10月13日 ----- 10月14日	2 日	ベルリン ----- ドイツ	大西 隆 第三部会員 （豊橋技術科学大学学長）
2	第21回国際栄養学会議	10月15日 ----- 10月20日	6 日	ブエノスアイレス ----- アルゼンチン	加藤 久典 連携会員 （東京大学総括プロジェクト機構特任教授）
3	国際科学会議（ICSU）理事会、ICSU 総会及び ICSU と国際社会科学学会（ISSC）の合同総会	10月21日 ----- 10月27日	7 日	台北 ----- 台湾	巽 和行 連携会員 （名古屋大学名誉教授）
4	国際科学会議（ICSU）総会及び ICSU と国際社会科学学会（ISSC）の合同総会	10月23日 ----- 10月26日	4 日	台北 ----- 台湾	大西 隆 第三部会員 （豊橋技術科学大学学長）
5	国際科学会議（ICSU）総会及び ICSU と国際社会科学学会（ISSC）の合同総会	10月23日 ----- 10月26日	4 日	台北 ----- 台湾	花木 啓祐 第三部会員 （東洋大学情報連携学部教授）
6	国際社会科学会議(ISSC)臨時総会	10月24日 ----- 10月26日	3 日	台北 ----- 台湾	齋藤 安彦 特任連携会員 （日本大学総合科学研究所教授）
7	国際社会科学会議(ISSC)臨時総会	10月24日 ----- 10月26日	3 日	台北 ----- 台湾	宮本 一夫 特任連携会員 （九州大学副学長・付属図書館長・文書館長）

8	第9回国際地形学会議	11月6日	6	日	ニューデリー	小口 高 連携会員 (東京大学空間情報科学研究センターセンター長・教授)
		11月11日			インド	
9	世界科学フォーラム (WSF) 運営委員会・本会議	11月6日	6	日	死海	花木 啓祐 第三部会員 (東洋大学情報連携学部教授)
		11月11日			ヨルダン	
10	世界科学フォーラム (WSF) 運営委員会・本会議	11月6日	6	日	死海	未定
		11月11日			ヨルダン	
11	世界工学団体連盟 (WFEO) 総会	11月26日	7	日	ローマ	塚原 健一 連携会員 (九州大学大学院工学研究院教授)
		12月2日			イタリア	
12	ICSU/科学研究における自由と責任に関する委員会 (CFRS) 等	11月6日	3	日	死海	井野瀬 久美恵 第一部会員 (甲南大学文学部教授)
		11月8日			ヨルダン	
13	日本カナダ女性研究者交流	11月予定	7	日	未定	未定
					カナダ	
14	ICSU/アジア・太平洋地域委員会定例会合	12月4日	2	日	ペナン	植松 光夫 特任連携会員 (東京大学大気海洋研究所教授)
		12月5日			マレーシア	
15	アジア科学アカデミー・科学協会連合地域ワークショップ	12月11日	5	日	三亜	未定
		12月15日			中国	

※候補者の会員・連携会員等の種別については、23期現在。

※24期にて候補者の会員・連携会員等の種別に変更が生じた際には、24期の幹事会にて必要な手続きを行う。

○平成29年度代表派遣実施計画の追加について

以下のとおり、平成29年度代表派遣について、会議の追加並びに派遣者の決定をする。

	会議名称	派遣期間 (会期分)	開催地 (国)	派遣候補者 (職名)	備考
1	国際社会科学会議(ISSC)臨時総会	10月24日 ～ 10月26日	台北 (台湾)	中野 聡 連携会員 (一橋大学副学長、社会学研究科教授)	代表派遣の追加 派遣者の決定
2	世界科学フォーラム(WSF)運営委員会・本会議	11月6日 ～ 11月11日	死海 (ヨルダン)	新福 洋子 特任連携会員 (聖路加国際大学看護学部 ウィメンズヘルス・助産学助教)	代表派遣の追加 派遣者の決定

※候補者の会員・連携会員等の種別については、23期現在。

※24期にて候補者の会員・連携会員等の種別に変更が生じた際には、24期の幹事会にて必要な手続きを行う。

○平成 29 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	国際科学会議 (ICSU) 総会、ICSU と国際社会科学評議会 (ISSC) の合同総会、International Symposium on Sustainability Science 及び Belmont Forum Information Day in the Asia Pacific Region & Collaborative Research Action Workshop	10月22日(日) ～ 10月28日(土)	7日	台北 ----- 台湾	春日 文子 連携会員 (国立研究開発法人国立環境研究所 特任フェロー)	第三区分※

※平成 29 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針（平成 29 年 4 月 28 日日本学術会議第 245 回幹事会決定）に基づく区分

(参考)

平成 29 年度フューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針

平成 29 年 4 月 28 日
日本学術会議第 245 回幹事会決定

国際学術プログラムであるフューチャー・アース（以下「フューチャー・アース」という。）の推進を図るため、日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規（以下「内規」という。）に基づき、平成 29 年度におけるフューチャー・アースに関する国際会議等への代表者の派遣の基本方針を以下のとおり定める。

フューチャー・アースにおいては、日本学術会議が日本の代表機関として国際本部事務局の機能（日本支部）の一部を担っていること、また、日本学術会議連携会員が国際本部事務局日本支部事務局長を務めていることから、平成 29 年度の内規第 51 条の各区分における国際会議等への代表者の派遣は下記の考えに基づいて行う。

(1) 第 1 区分

- ・フューチャー・アースの国際的な推進体制の中心である科学委員会（SC: Science Committee）、関与委員会（EC: Engagement Committee）、評議会（GC: Governing Council）、及び国際本部事務局の行う会議へ、国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・本年度、SC、EC は一回程度、国際本部事務局会合は数回程度の開催が見込まれる。
（注）SC と EC は諮問委員会として統合される予定。

(2) 第 2 区分

- ・フューチャー・アースの実施にあたり、国際本部事務局及びアジア地域事務局が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を含む会員等を派遣する。
- ・具体的には、日本学術会議が国際本部事務局として運営の一部を担う予定であるコア・プロジェクトに関する会議、タスクフォース、及び KAN（Knowledge-Action Networks）に関する会議等への派遣を行う。
- ・上記については本年度それぞれ数回程度見込まれる。

(3) 第 3 区分

- ・フューチャー・アースに関する活動を広報周知するため、国際学術団体等が行う会議へ国際本部事務局日本支部事務局長（連携会員）を派遣する。
- ・上記にあたっては、国連の行う会議等の分野横断的、あるいは地域的な広がりを大きなものを優先する。
- ・さらに、予算の状況に応じフューチャー・アースに関連するその他のコア・プロジェクトの会議へ会員等を派遣する。

本基本方針に基づいて国際会議等への代表者の派遣を行う場合は、別添の様式にて事前に幹事会の議決に付すものとする。

※様式記載省略

「Future Earth Special Seminar “Science and Communication” (仮)」、
 「世界科学館サミット SCWS2017 セッション Awareness to Actions!-Global Changes and Future Earth」 及び
 「Future Earth Strategic Seminar “Future Earth and Communication (仮)”」 招へい者

○外国人招へい

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	Future Earth Special Seminar “Science and Communication” (仮)、 世界科学館サミット SCWS2017 セッション Awareness to Actions!-Global Changes and Future Earth 及び Future Earth Strategic Seminar “Future Earth and Communication (仮)”	11月14日(火) ～ 11月16日(木)	3日	東京 —— 日本	Asher Minns Head of Communication Future Earth Europe (英国)	講演者として 参加するため

フューチャー・アース東京会議 招へい者

○外国人招へい

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	フューチャー・アース 東京会議	10月19日 (木) ～ 10月20日 (金)	2日	東京 ----- 日本	Amy Luers Executive Director Future Earth (カナダ)	講演者として参加するため

地球大気科学国際協同研究計画（IGAC）国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び
大気組成・化学の観測・モデル会議 招へい者

○外国人招へい

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備 考
			計			
1	地球大気科学国際協同研究計画（IGAC）国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Paul Beukes Lecturer North-West University (南アフリカ)	科学運営委員会委員として参加するため
2	地球大気科学国際協同研究計画（IGAC）国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Colette Heald Associate Professor Massachusetts Institute of Technology (米国)	科学運営委員会委員として参加するため
3	地球大気科学国際協同研究計画（IGAC）国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Judith Hoelzemann Professor Federal University of Rio Grande do Norte (ブラジル)	科学運営委員会委員として参加するため
4	地球大気科学国際協同研究計画（IGAC）国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Allen Goldstein Professor University of California, Berkeley (UCB) (米国)	科学運営委員会委員として参加するため

5	地球大気科学国際協同研究計画 (IGAC) 国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Manish Naja Scientist Aryabhata Research Institute of Observational Sciences (インド)	科学運営委員会委員として 参加するため
6	地球大気科学国際協同研究計画 (IGAC) 国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Tao Wang Professor Hong Kong Polytechnic University (香港)	科学運営委員会委員として 参加するため
7	地球大気科学国際協同研究計画 (IGAC) 国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Noureddine Yassaa Director Centre of Development of Renewable Energy (アルジェリア)	科学運営委員会委員として 参加するため
8	地球大気科学国際協同研究計画 (IGAC) 国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Nguyen Thi Kim Oanh Professor Asian Institute of Technology (タイ)	科学運営委員会委員として 参加するため
9	地球大気科学国際協同研究計画 (IGAC) 国際会議準備会合、IGAC 科学運営委員会 2017 及び大気組成・化学の観測・モデル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Mei Zheng Professor Peking University (中国)	科学運営委員会委員として 参加するため

10	地球大気科学国際協同 研究計画 (IGAC) 国際会 議準備会合、IGAC 科学 運営委員会 2017 及び大 気組成・化学の観測・モ デル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Christian George Deputy-director the Research Institute on Catalysis and the Environment at Lyon (フランス)	科学運営委員会委員として 参加するため
11	地球大気科学国際協同 研究計画 (IGAC) 国際会 議準備会合、IGAC 科学 運営委員会 2017 及び大 気組成・化学の観測・モ デル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Jennifer Murphy Professor University of Toronto (カナダ)	科学運営委員会委員として 参加するため
12	地球大気科学国際協同 研究計画 (IGAC) 国際会 議準備会合、IGAC 科学 運営委員会 2017 及び大 気組成・化学の観測・モ デル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Michel Grutter Professor the Center for Atmospheric Sciences (メキシコ)	科学運営委員会委員として 参加するため
13	地球大気科学国際協同 研究計画 (IGAC) 国際会 議準備会合、IGAC 科学 運営委員会 2017 及び大 気組成・化学の観測・モ デル会議	11月4日 (土) ～ 11月10日 (金)	7日	<u>ムラマラング</u> オーストラリア	Gregory Frost Research Chemist National Oceanic & Atmospheric Administration (米国)	科学運営委員会委員として 参加するため

4. シンポジウム等（第23期中の開催）

提案20

公開シンポジウム「学会の男女共同参画を考える」の開催について

1. 主催：日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会
2. 共催：日本心理学会会員集会、日本心理学会ジェンダー研究会、心理科学研究会ジェンダー部会
3. 後援：なし
4. 日時：平成29年9月22日（金）15:30：～17:00
5. 場所：久留米シティプラザ（福岡県久留米市六ツ門町8-1）（交渉中）
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：本分科会は、人文・社会科学系学協会における男女共同参画がより推進されるよう相互の連携を模索しているところである。日本心理学会をはじめとする心理学諸学会との連携もすでに始まっており、このたび、日本心理学会での男女共同参画を呼びかける会員集会との共催により、問題を共有し、協力体制を構築するため、下記のようにシンポジウムを開催する。
8. 次第：
15:30 人文・社会科学系学協会の男女共同参画に向けた動き
和泉ちえ（日本学術会議連携会員、千葉大学文学部教授）
15:50 あいさつ（スカイプにて）
井野瀬久美恵（日本学術会議副会長、日本学術会議第一部会員、甲南大学文学部教授）
16:10 心理学諸学会における男女共同参画の現状と課題
青野篤子（福山大学人間文化学部教授）
16:30 討論
（司会）永瀬伸子（日本学術会議第一部会員、お茶の水女子大学基幹研究院教授、学長補佐）
17:00 閉会
9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「ライフサイエンス・臨床医学におけるイメージングサイエンスの展開」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会放射線・臨床検査分科会、新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」先端バイオイメージング支援プラットフォーム
2. 共 催：なし
3. 後 援：自然科学研究機構生理学研究所、自然科学研究機構基礎生物学研究所、日本磁気共鳴医学会、日本神経放射線学会
4. 日 時：平成29年9月26日（火）13：30～17：45
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：近年、ライフサイエンス領域におけるイメージング技術の進歩は著しく、膨大なデータが短時間に収集されるようになった。これは、従来の「仮説検証型」アプローチから、大量のデータをもとに法則を見出す「データ駆動型」アプローチへの転換を促す大きな力となっている。データ取得後、いかに定量的パラメーターを抽出するかという画像処理技術が肝要であり、そこに対象に依存しないイメージングサイエンスの重要性が浮かび上がってくる。近年、ヒトイメージング手法の1つであるMRIは、技術革新による超高磁場化とともに、イメージングサイエンスの基盤整備により実現されるビッグ・データ解析に進みつつある。脳神経科学領域においては、米国のHuman Connectome Project (HCP)では脳機能画像の大規模なデータベースの構築を、EUのHuman Brain Project (HBP)では機関連携による情報通信(ICT)技術を活用した研究基盤整備を進めており、神経科学・医学研究を推進する機運が高まっている。更に米国のBRAIN Initiativeでは脳神経回路の解明を目的とする新技術の開発に着手している。日本においても脳機能ネットワークの全容解明を目指す革新脳プロジェクトが進行中である。

一方、ライフサイエンスから臨床医学へ向かう方向性を明確にするために、「ヒューマンバイオロジー」という概念が導入され、ヒトの疾患実態に基づきヒトの疾患制御に帰結する研究開発を指す。その有力な一環としてコホート研究がある。UK Biobank projectは長期前向き疫学調査で、2006-2010にかけて40-69歳の英国人50万人を対象に、遺伝子、血液資料、生活習慣データが収集された。継続研究として、生活習慣病の発病における遺伝子・環境の相互作用を明らかにするために、10万人にneuroimagingとcardiac imagingを新たに実施することとなり、現在進行中である。本邦でも子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）が開始されており、イメージングとのリンクが期待される。このような研究動向において、イメージングデータをbiomarkerとして標準化することが必須であり、イメージングサイエンスの重要な課題と考えられる。

本シンポジウムでは、このような研究動向に鑑み、超高磁場MRI、脳機能画像データベース化、コホート研究の専門家に登壇頂き、上記の動向と今後のヒューマンバイオロジーとイメージングサイエンスの展開を展望する。

8. 次 第:

司会 定藤規弘 (日本学術会議連携会員、自然科学研究機構生理学研究所システム脳科学研究領域心理生理学部門教授)

13:30 開会挨拶

青木茂樹 (日本学術会議連携会員、順天堂大学医学部放射線医学講座教授、同大学院医学研究科放射線医学教授)

第1部

13:35 超高磁場 MR イメージング技術と脳科学研究

Denis Le Bihan (CEA Research Director & NeuroSpin Founding-Director)

14:05 日本における超高磁場 MRI イメージング研究の現況

福永雅喜 (自然科学研究機構生理学研究所システム脳科学研究領域心理生理学部門准教授)

14:35 Human Connectome Project の現況

Matthew F. Glasser (Internal Medicine, St. Luke's Hospital Resident Physician & Neuroscience, Washington University in St Louis School of Medicine, Visiting Scholar)

15:05 日本における脳機能構造データベースの現況

林拓也 (理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター機能構築イメージングチームチームリーダー)

15:35 MR イメージング技術と臨床医学

阿部修 (東京大学大学院医学系研究科生体物理医学専攻放射線医学講座教授)

16:05 休憩

第2部

16:15 UK biobank の現況

Fidel Alfaró Almagro (University of Oxford, DPhil student)

16:45 日本の発達コホート研究の現況 (エコチル)

山縣然太朗 (山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座教授)

17:15 日本におけるイメージングを用いたコホート研究の現況 (東北メディカルメガバンク)

瀧靖之 (東北大学加齢医学研究所 機能画像医学研究分野教授)

17:45 閉会の挨拶

笠井清登 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授)

9. 関係部の承認の有無: 第二部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

公開シンポジウム「名古屋議定書、日本において発効
-締約国加入後の学術研究におけるリスク管理について-」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同農学分野における名古屋議定書関連検討分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・農学委員会・基礎医学委員会合同遺伝資源分科会

2. 日 時：平成 29 年 9 月 25 日（月）13：00～17：00

3. 場 所：日本学術会議講堂

4. 分科会等の開催：開催予定

5. 開催趣旨：

平成 28 年 12 月 6 日、日本学術会議は、提言「学術研究の円滑な推進のための名古屋議定書批准に伴う措置について」を公表した。本提言では、「生物多様性条約下での遺伝資源の取得の機会及びその利用から生じる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」に関わる問題点を論じ、政府に対して問題解決のため名古屋議定書の早期締約を要望し、また、政府、大学・研究機関等に遺伝資源の持続的利用と利益配分に関わる問題点等の周知徹底、国内支援体制の整備等について要望した。平成 29 年 5 月 19 日、政府は国会での議決を経て名古屋議定書の締結を閣議決定し、22 日に受託書を国連に寄託した。寄託後 90 日となる 8 月 20 日にわが国は名古屋議定書締約国に加入することになり、名古屋議定書の効力が生じるとともに、国内措置（ABS 指針）が施行される。このような状況を踏まえ、本シンポジウムでは、海外遺伝資源を利用した学術研究における留意点やリスク管理、国内措置等について議論する。

6. 次 第(総合司会)廣野育生（日本学術会議特任連携会員、東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科教授）

開会の挨拶 奥野員敏（日本学術会議連携会員、元筑波大学生命環境系教授）

挨拶 長野哲雄（日本学術会議第二部会員、東京大学名誉教授、東京大学創薬機構客員教授）

提言「学術研究の円滑な推進のための名古屋議定書批准に伴う措置について」の概要説明

三輪清志（日本学術会議連携会員、味の素株式会社客員フェロー）

名古屋議定書締約国加入に対応する国内措置について

野田浩絵（文部科学省研究振興局ライフサイエンス課調整官）

海外遺伝資源を利用した学術研究におけるリスク管理について

鈴木睦昭（日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立遺伝学研究所知的財産室長）

国内措置に関わる大学での体制整備の現状と遺伝資源取得に関する今後の課題

- 1) 設楽愛子 (東京海洋大学産学・地域連携推進機構 URA)
- 2) 狩野幹人 (三重大学地域イノベーション推進機構知的財産統括室准教授)
- 3) 深見克哉 (九州大学有体物管理センター教授)

SATREPS における ABS 対策について

小平憲祐 (国立研究開発法人科学技術振興機構国際 SATREPS グループ調査員)

緊急報告：COP13 におけるデジタル配列情報に関する論議と COP14 への対応

小原雄治 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
データサイエンス共同利用基盤施設ライフサイエンス統合データベース
センターセンター長)

鈴木睦昭 (日本学術会議特任連携会員、大学共同利用機関法人情報・システム研究
機構国立遺伝学研究所知的財産室長)

質疑応答

司会：甲斐知恵子 (日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所教授)

閉会の挨拶 大杉 立 (日本学術会議第二部会員、東京農業大学客員教授)

7. 関係部の承認の有無：第二部承認

(下線の講演者は、主催分科会委員)

5. シンポジウム等（第24期開催）

※第24期に会員・連携会員であると考えられる者が複数名、挨拶・講演することが要件。
(また、第24期冒頭にて主催分科会等を早急に設置すること。)

提案23

公開シンポジウム「GLP(全球陸域研究計画)の推進と 国連持続可能な開発目標(SDGs)への貢献」の開催について

1. 主 催：日本学術会議環境学委員会・地球惑星科学委員会合同 IGBP・WCRP・DIVERSITAS
合同分科会

2. 共 催：なし

3. 後 援：GLP 拠点事務局、日本地球惑星科学連合、地理学連携機構

4. 日 時：平成29年10月16日(月)：13時00分～17時30分

5. 場 所：日本学術会議講堂

6. 分科会の開催：なし

7. 開催趣旨：

IGBP（国際地圏・生物圏研究計画）と IHDP（地球環境変化の人的側面研究計画）の共同プロジェクトとして生まれた LUC（土地利用・被覆変化研究計画）と GCTE（地球変化と陸域生態系合同研究計画）とが発展的に連携することで発足した Global Land Project (GLP: 全球陸域研究計画) は、2014年、新しい地球環境研究プラットフォームである Future Earth のコアプロジェクトとして再発足し、新しい国際研究推進体制を整えつつある。これに対応し、分野横断的に国内外の GLP 研究者間の連絡を密にし、GLP 研究を推進するために、日本学術会議は環境学委員会 IWD 分科会の下に GLP 小委員会を設置している。本シンポジウムはこの GLP 小委員会がこれまでの研究成果を広く紹介し、関連する諸領域との連携により更に発展させるために実施するものである。GLP は Future Earth が提起する 8 つの大きな課題群 (Key Focal Challenges) いずれとも、とりわけ課題 1 「すべての人に水、エネルギー、食料を」及び課題 5 「持続可能な農村開発を」と深く関わっている。また国連の持続可能な開発目標 SDGs のいずれとも、とりわけ開発目標 11 「持続可能な都市と地域」及び開発目標 15 「陸域の生命」と深く関わっている。これらの関わりを学際的な共同研究プロジェクトの形で具体化し推進することが国際的にも求められているところであり、本シンポジウムによりそれに弾みをつけたい。

8. 次 第：

総合司会 春山成子(日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学研究科教授)

13:00-13:05 開会挨拶

沖 大幹 (日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所教授)

13:05-13:25 モンスーンアジアにおける持続可能な土地利用の形成に向けて

氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

- 13:25-13:45 ランドサイエンスへのGLP 日本拠点オフィスの取り組み
GLP 日本拠点オフィス
- 13:45-14:05 北東アジアの乾燥地における土地劣化・再生と社会－生態システムの再編
大黒俊哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
- 14:05-14:25 山岳途上国における地域の持続性：パミールとヒマラヤの事例
渡辺悌二（北海道大学大学院地球環境科学研究院教授）
- 14:25-14:45 中国の都市地域における死後の土地利用
土居晴洋（大分大学教育学部教授）
- 14:45-15:00 休憩
- 15:00-15:20 中国における都市化に伴う郊外地域の変容－実態調査に基づく考察
季 増民（椋山女学園大学文化情報学部教授）
- 15:20-15:40 閉鎖性水域の水環境問題－地域環境問題を地球的課題につなげる考え方
近藤昭彦（千葉大学リモートセンシングセンター教授）
- 15:40-16:00 Fieldology（人環水土学）の構築
大崎 満（北海道大学大学院農学研究院名誉教授）
- 16:00-16:20 土地利用変化が流域水・物質循環に与える影響---長江流域を例として
王勤学（国立環境研究所地域環境研究センター主席研究員）
- 16:20-16:40 ダム湖水質に及ぼす温暖化の直接・間接影響と土地利用の重要性
占部城太郎（東北大学大学院生命科学研究科教授）
- 16:40-17:25 ディスカッション（休憩時間に質問票を回収し、それを元に質疑応答する）
司会 （未定）
- 17:25-17:30 閉会挨拶
氷見山幸夫（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授）

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催分科会委員）

※申請理由：

- ・本シンポジウムの企画・準備は氷見山幸夫（第三部会員）が23期中に行ったが、開催場所の確保や登壇者の都合により、開催時期は24期とせざるを得なかった。
- ・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期IGBP・WCRP・DIVERSITAS 合同分科会の構成員から、22-23期会員の氷見山幸夫委員、23-24期連携会員の沖大幹委員がシンポジウム参加）。

公開シンポジウム「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル2017」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議材料工学委員会バイオマテリアル分科会
2. 共 催：日本バイオマテリアル学会
3. 後 援：未定
4. 日 時：平成29年11月21日（火）9：30～12：00
5. 場 所：タワーホール船堀 5階小ホール（東京都江戸川区船堀 4-1-1）
6. 分科会等の開催：なし
7. 開催趣旨：分科会主催シンポジウム「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル研究戦略」を、バイオマテリアル学会会員に向けた学術会議バイオマテリアル分科会の活動伝達を目的として、第39回日本バイオマテリアル学会大会開催中に同会場開催する。バイオマテリアル研究拠点形成の重要性の確認の効果が期待できる。
8. 次 第：

シンポジウムタイトル：「イノベーションプラットフォームとしてのバイオマテリアル2017」

座長：埴 隆夫（日本学術会議連携会員、日本バイオマテリアル学会会長、東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授）

演題・演者：

 - (1) 「AMED が求めるバイオマテリアル研究」
高見牧人（国立研究開発法人日本医療研究開発機構産学連携部部長）
 - (2) 「整形外科医からみたバイオマテリアル研究の方向性」
岩崎倫政（北海道大学大学院医学研究院教授）
 - (3) 「国際的視点からみたバイオマテリアル研究のあり方」
片岡一則（日本学術会議第三部会員、公益財団法人川崎市産業振興財団副理事長）
 - (4) 「日本学術会議提言 超スマート社会実現による健康寿命延伸のための材料戦略－医療を支えるバイオマテリアル研究に関する提言－」
岸田晶夫（日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授）
由井伸彦（日本バイオマテリアル学会次期会長：東京医科歯科大学学生体材料工学研究所教授）
 - (5) 総合討論
9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の講演者等は、主催委員会（分科会）委員）

※申請理由：

・本シンポジウムの企画・準備は片岡一則（第三部会員），吉田豊信（第三部会員）が23期中に行ったが，開催場所の確保や登壇者の都合により，開催時期は24期とせざるを得なかった。

・来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期法とバイオマテリアル分科会の構成員から、23-24期会員の片岡一則委員、23-24期連携会員の岸田晶夫委員、22-23期連携会員の埴隆夫委員がシンポジウム参加予定）。

公開シンポジウム「第7回計算力学シンポジウム」の開催について

1. 主催：日本学術会議総合工学委員会・機械工学委員会合同計算科学シミュレーションと工学設計分科会
2. 共催：一般社団法人可視化情報学会、NPO 法人 CAE 懇話会、一般社団法人日本応用数理学会、一般社団法人日本機械学会、一般社団法人日本計算工学会、日本計算数理工学会、日本計算力学連合、一般社団法人日本シミュレーション学会、アジア太平洋計算力学連合、国際計算力学連合会
3. 協賛：公益社団法人自動車技術会
4. 日時：平成29年12月7日（水）10：00～17：30
5. 場所：日本学術会議講堂、外1室
6. 分科会等の開催：開催予定
7. 開催趣旨：第 I 部では、我が国を代表する計算力学関連学会が一堂に会し、各学会を代表する若手が最新の成果を披露する。第 II 部では、計算力学と数理の関係について議論する場を設ける。
8. 次第：総合司会：吉村忍（日本学術会議連携会員、東京大学副学長・大学院工学系研究科教授）

10：00 開会の辞
矢川元基（日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授、東洋大学名誉教授）

第 I 部 若手研究者による講演（10：10-15：40）

10：10-10：40 講演 1（日本計算数理工学会）

三澤亮太（京都大学工学研究科機械理工学専攻特定研究員）

「開空間波動散乱問題の複素固有値の境界積分方程式法による数値計算について」

10：40-11：10 講演 2（NPO 法人 CAE 懇話会）

尾上洋介（京都大学学際融合研究開発センター特定助教）

「AI を使った気候シミュレーションにおける因果探索（仮）」

11：10-11：40 講演 3（一般社団法人日本機械学会計算力学部門）

山中晃徳（東京農工大学大学院工学研究科准教授）

「データ同化との融合によるフェーズフィールド法の進展」

11：40-12：10 講演 4（一般社団法人日本計算工学会）

浅井光輝（九州大学大学院工学研究院社会基盤部門准教授）

「災害シミュレーションにおける学際的共同研究の必要性～粒子法の大規模シミュレーション」

ュレーションとその可視化～」

12：10-13：40 昼休み

13：40-14：10 講演 5 (日本計算力学連合)

鈴木正也 (国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構航空技術部門研究開発員)
「航空エンジンにおけるマルチフィジックス・シミュレーションの展開」

14：10-14：40 講演 6 (一般社団法人日本シミュレーション学会)

水口朋子 (京都工芸繊維大学大学戦略推進機構系グローバルエクセレンス (材料化学系) 准教授)

「分子性液体の液体・液体相転移とそれに伴う構造変化」

14：40-15：10 講演 7 (一般社団法人可視化情報学会)

河村 拓馬 (国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構システム
計算科学センター研究員) 「PBVR による大規模シミュレーション
の対話的遠隔可視化」

15：10-15：40 講演 8 (一般社団法人日本応用数理学会)

縣 亮一郎 (国立研究開発法人海洋研究開発機構地震津波海域観測研
究センターPD)

「粘弾性変形の大規模有限要素解析を用いた地殻変動シミュレーション：地殻
構造最適化と今後の展開」

15：40-16：00 休憩

第 II 部 パネル討論 「計算力学と数理の関係について」 (16：00-17：20)

司会 西村直志 (京都大学大学院情報学研究科複雑系科学教授)

パネリスト

- ・平野 徹 (ダイキン情報システム株式会社顧問、NPO 法人 CAE 懇話会理事長)
「機械系技術者から AI・ビッグデータ解析に期待するもの」
- ・畔上秀幸 (名古屋大学大学院情報学研究科複雑系科学専攻教授)
「計算力学と数理科学関連の最適化研究の現状と課題」
- ・後藤 彰 (株式会社荏原製作所技監)
「流体機械における最適化 (主に流体分野) に関わるニーズ」

17：20 閉会の辞

萩原一郎 (日本学術会議連携会員、明治大学研究知財戦略機構特任教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(下線の講演者等は、主催分科会委員)

※申請理由

来期の連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる (今期計算科学シミュレーションと工学設計分科会から、23-24 期連携会員の吉村忍氏が総合司会を務め、22-23 期連携会員の矢川元基氏が開会の辞、23-24 期連携会員の萩原一郎氏が閉会の辞を述べることを予定している)。

北海道地区会議主催学術講演会

「持続可能な世界にむけて、国連が採択した目標(SDGs)と教育(仮題)」の開催について

1. 主 催：日本学術会議北海道地区会議
2. 共 催：北海道教育大学
3. 日 時：平成 29 年 11 月 12 日(日) 13:30～17:00
4. 場 所：北海道教育大学旭川校 301 教室(旭川市北門町 9 丁目)

5. 開催趣旨：

日本学術会議北海道地区会議は平成 29 年 2 月 11 日、北海道大学と共催で、国連が定めた「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)」に対する北海道における取り組みをテーマとした講演会を実施した。ここでは SDGs の概要、SDGs への貢献として北海道地区の高等教育機関が行っている世界各地及び道内での様々な活動の状況が紹介され、持続可能な開発についての関心と認識を大いに高めることができた。そこで今年度は場所を札幌市から北海道第二の都市旭川市に移し、昨年度取り上げられなかった開発目標 4「質の高い教育をみんなに」とそれに関連するいくつかの課題に焦点を当て、北海道における SDGs に対する社会の関心と認識の更なる向上を目指す。なおテーマの性格上、北海道教育大学との共催とし、当該テーマで研究実績が豊富な宮城教育大学からも講師を招いて実施する。

6. 次 第

司会 氷見山 幸夫(日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

(1) 開会挨拶

13:30～13:40 日本学術会議会長又は副会長(予定)

13:40～13:45 大津 和子(北海道教育大学理事・副学長)

(2) 講演

13:45～14:15 SDGs と学校教育(仮題)

氷見山 幸夫(日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

14:15～14:45 ジオパーク活動と地域の自然・歴史教育の意義(仮題)

和田 恵治(北海道教育大学教育学部教授)

14:45～15:00 休憩

15:00～15:30 SDGs とユネスコスクール(仮題)

小金澤 孝昭 (宮城教育大学名誉教授)

15:30～16:00 サブサハラ諸国における教育と子ども
大津 和子(北海道教育大学理事・副学長)

(3) 総合討論

16:00～16:55

座長: 氷見山 幸夫(日本学術会議第三部会員、北海道教育大学名誉教授)

(4) 閉会の挨拶

16:55～17:00 第24期北海道地区会議運営協議会代表幹事

(下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員)

※申請理由

・北海道地区会議主催学術講演会は、来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる(今期北海道地区会議の構成員から、第三部会員の氷見山幸雄氏(22-23期会員)が司会と講演を行い、来期運営協議会代表幹事が閉会挨拶を行うことを予定している)。

第二部会員、北海道地区会議代表幹事 上田 一郎

中部地区会議主催学術講演会「ジェンダーと名古屋大学」の開催について

1. 主 催：日本学術会議中部地区会議
2. 共 催：名古屋大学
3. 日 時：平成29年11月30日（木）13：15～16：00
4. 場 所：名古屋大学アジア法交流館2階コミュニティフォーラム
（名古屋市千種区不老町）

5. 開催趣旨：

今般名古屋大学にジェンダー研究を担うセンターとして、ジェンダー・リサーチ・ライブラリ（GRL）が平成29年8月30日に開設される。名古屋大学がこの課題に長年取り組んできた成果でもあるが、今後は大学内での政策の遂行とともに、理論面での研究の促進が期待されている。これを記念し、文理両分野の研究者から研究の一端を紹介していただく。

6. 次 第

- (1) 13:15～13:25 開会挨拶
日本学術会議会長（予定）
松尾 清一（名古屋大学学長）
- (2) 13:25～13:35 主催者挨拶
戸田山 和久（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報学研
究科）
- (3) 13:35～13:45 科学者との懇談会活動報告
松田 正久（愛知教育大学名誉教授）
- (4) 13:45～15:55 学術講演会『ジェンダーと名古屋大学』の演題及び演者
 - ・講演「ジェンダー問題に関する日本学術会議の取り組み」
三成 美保（日本学術会議第一部会員、奈良女子大学副学長）
 - ・講演「フィールド研究におけるジェンダー」
竹中 千里（名古屋大学農学部・生命農学研究科教授）
 - ・講演「ジェンダーと政治、家族を考える」
武田 宏子（名古屋大学法政国際教育協力研究センター教授）
- (5) 16:00 閉会挨拶（司会）
和田 肇（日本学術会議連携会員、名古屋大学副総長）

（下線の講演者等は、主催地区会議所属の会員・連携会員）

※申請理由

・中部地区会議主催学術講演会は、来期の会員・連携会員の2名以上が参加する体制の確保を見込んでいる（今期中部地区会議の構成員から、23-24期会員の戸田山和久氏が主催者挨拶を行い、23-24期連携会員の和田肇氏が司会と閉会挨拶を行うことを予定している）。
第二部会員、中部地区会議代表幹事 高橋 雅英